

子どもの本

研究会



35周年

子どもにはなしを
本のたのしみを!

【私の一冊】

『モーツアルトはおことわり』

マイケル・モーパール 作

マイケル・フォアマン 絵 / さくま ゆみこ 訳 (岩崎書店)

菊島 紘子

6年ほど前、池袋の小さなレストランで「フルートと語りの会」があり友人と出かけた。プログラムの一つに「世界で一番の贈りもの」が語られ、私はマイケル・モーパールの作品に初めて出会った。語り手の女性の声は落ち着いていて聴き易く、長い物語を充分楽しむ事ができた。

帰り道、私はモーパールの作品をもっと読みたくて『モーツアルトはおことわり』を購入した。絵を描いているマイケル・フォアマンはブルーの色を美しく出す人だそうだ。「モーツアルトはおことわり」という題名にも魅かれ、すぐに読み始めた。新米記者のレスリーは突然、名バイオリニスト・レヴィ氏のインタビューを仰せつかった。怪我で入院している先輩から、気難しいレヴィ氏の事をいろいろ教えられるが、その中に絶対触れてはいけない質問が二つ、プライベートな話題とモーツアルトについての質問だ。

さて当日、レスリーは緊張の余り、聞いてはいけないモーツアルトの話の切り出しでしまった。おまけにプライベートな事にまで首を突っ込んでしまって……. 思った通りレヴィ氏は不機嫌になり目をつぶった。長い沈黙の末レヴィ氏は何かを決意したように話し始めた。「秘密は嘘と同じ、という人もいる。とうとうその嘘を止める時がきたようだ」…….

(熊本子どもの本の研究会 会員・横浜市在住)

